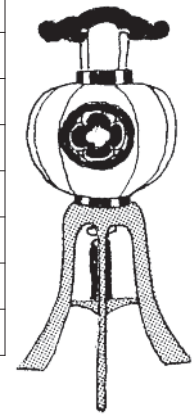
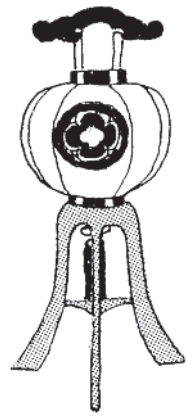




《題字・森神紫陽》

平成25年初盆のお家

喪主	続柄	故人名	命日	享年	出身	地区名
御手洗 知佐子	夫	能人	平成24年 9月 1日	86歳	椀 杭	佐伯市 宇目大原
高須賀 博 志	母	スミ子	9月20日	94歳	久留須	佐伯市 蒲江畑野浦
御手洗 一 樹	祖父	孝	10月22日	85歳	椀 杭	佐伯市 常盤南町
川 野 貴 重	母	君江	10月23日	94歳	地 元	直 川 赤木野の内
久保田 慶史郎	妻	美佐子	11月11日	45歳	大 鶴	大分市 千代町
甲 斐 岩 夫	母	キクエ	11月21日	94歳	細川内	佐伯市 稲垣区
竹 田 宏 充	父	金作	11月23日	84歳	神の原	大分市 賀来北
染 矢 和 陽	祖母	敏子	平成25年 2月 4日	96歳	柚の原	佐伯市 鶴岡町
小 野 治 重	父	宗仁	2月 7日	97歳	内 水	佐伯市 上 岡
染 矢 昭 一	父	博正	3月 4日	77歳	地 元	直 川 仁田原柚の原
小 田 幸 子	夫	常雄	3月 5日	68歳	上の地	福 岡 那珂川町
矢 野 俊 行	母	久江	3月 8日	88歳	中 道	直 川 赤木中道
酒 井 実	父	安藤兼夫	3月16日	97歳	地 元	直 川 赤木中道
吉 内 耕 二	母	喜代	3月18日	91歳	地 元	直 川 下直見江河内
簀 戸 猪 文	弟	喜久夫	3月23日	59歳	地 元	直 川 仁田原岸の上
鳴 海 健 二	母	豊子	4月29日	91歳	地 元	佐伯市 蒲江尾浦
簀 戸 寅 夫	父	重郎	5月 7日	92歳	地 元	直 川 仁田原岸の上
戸 高 恒 子	夫	八三郎	6月28日	90歳	地 元	直 川 仁田原内水



7月18日現在（乍勝手敬称略）

お盆號（第59號）
 正定寺花園会広報
 平成25年夏発行 発行所 一部単価135円（非売品）
 檀信徒数 市内：324戸 市外：75戸
 〒879-3104 大分県佐伯市直川大字仁田原 寶林山正定寺内
 TEL0972 (58) 2190 FAX0972 (58) 2192
 URL <http://syoji.com/> e-mail shoji@saiki.tv
 住職 小原 南陽 閑栖 小原 寿山

☆平成25年お盆参りの日程☆

始まりと終わりの時間はだいたいの目安にしてください。（定時ではありません）

月 日	曜	日 柄	開始時間～	地 区
8月1日	(木)	盆入り	午前9時～	細川内⇒道の内⇒吹原⇒中津留（赤木）
8月2日	(金)	塚日	午前9時～	野の内⇒堂師⇒栗林⇒向船場
8月3日	(土)	友引	午前9時～	上の地⇒袖の原
8月4日	(日)		午前9時～	用來⇒天津留⇒下城⇒栴ヶ原⇒杭の内
8月5日	(月)	塚日・煤掃き盆	午前9時～	内水⇒寺の下⇒岸の上
8月6日	(火)		午前9時～	新中⇒久留須⇒川又⇒横川
8月7日	(水)	立秋・池替え盆	午前9時～	長野⇒立箱⇒市屋敷
8月8日	(木)	友引	午前9時～	大久保⇒萱垣⇒大鶴⇒学校下⇒神内
8月9日	(金)	井戸・墓掃除	午前9時～	竹の下⇒園⇒中津留⇒間庭⇒三重⇒延岡⇒日向
8月10日	(土)		午前9時～	神の原⇒江河内⇒水口⇒間⇒本匠⇒弥生
8月11日	(日)	花取り盆	午前9時～	黒岩⇒堅田⇒稲垣⇒鶴望⇒海崎⇒白坪⇒城南
8月12日	(月)		午前10時～	東町⇒野岡⇒女島⇒鶴岡⇒上岡⇒宇佐⇒別府
8月13日	(火)	草刈り盆・精霊迎え盆	午前10時～	賀来⇒田尻⇒光吉⇒高江⇒敷戸⇒鶴崎⇒白杵
8月14日	(水)	盂蘭盆・友引	午前10時～	畑の浦⇒尾浦⇒鶴見⇒稲垣
8月15日	(木)	盂蘭盆・精霊流し	午前10時～	宇目⇒仁田原初盆⇒赤木初盆⇒直見初盆
8月16日	(金)	精霊送り盆	午前11時	遠地各家の位牌堂諷経
8月17日	(土)	盆明け		

お盆期間中のお知らせ

- ① 本年は住職が全てお参りする予定ですが、葬儀・天候などで加担僧にお願いする場合があります。
- ② 昼休み（昼食時）にお参りする場合がありますのでご承知ください。
- ③ 葬儀や天候の都合で日程を延ばす場合は、午前9時までに地区世話人様にご連絡致します。
- ④ 直川内で雨天（大雨）の場合、足袋・衣が濡れ、皆さまにご迷惑をお掛けしますので座敷に上がりず、草鞋・合羽でお参りを致します。（軒先でのお勤めを致します。）
- ⑤ 台風などの延期に伴い14日の地区が16日以降に成ることが有ります。
- ⑥ 留守の家は外からお経を上げさせて戴きます。カギは閉めてお布施は近所にお預けください。
- ⑦ 1日～16日の間は、盆中のため本堂を会場にしての葬儀が出来ませんので葬儀の場合は「自宅」もしくは「公民館」や「斎場」で行うようにご協力ください。又、伴僧（役僧）の手配が難しい場合がありますのでご了承ください

◆お盆まいり各家別の日程◆

8月1日(木) 細川内⇒道の内⇒吹原⇒中津留(赤木)						
長田小太郎 小野浩伸 安藤久男 宮下與 安藤健辞	小田木聖孝 井崎敏行 矢野照雄 後藤富士夫	御手洗麗子 御手洗晴視 山内正明 柳井道則	小野勇一 小野二三雄 山内文男 安藤哲也	柳井孝義 安藤鉄也 山内一平 広瀬茂弘	柳井順一郎 安藤慶喜 高橋慶太 広瀬精治	
8月2日(金) 野の内⇒堂師⇒栗林⇒向船場						
岩佐昭一 安藤愛子 野村浩史 森下モキ 星野延子	染矢憲一朗 伊東好文 羽明忠義 武田雄二	後藤政子 川野久美子 広瀬豊喜 甲斐興宣	後藤保代 御手洗欣也 川野登志郎 甲斐一男	岩崎政徳 阿部英治 広瀬登代子 武田博	宇戸ミヤ子 広瀬正也 武田敏秋 星野真澄	
8月3日(土：友引) 上の地⇒柚の原						
林亀 石川時彦 小野道夫 小野哲夫 染矢房江	小野美智治 野の下博 岩佐利通 鉄山宗始 岡田伊勢夫	古矢長生 曾根田千鳥 小野泰雄 岡田喜敏 橋迫寿生	近藤正視 小野潔 志賀健一郎 林美春 山口直哉	植田純市 河野辰巳 小野富生 山下雄平	志賀満 小田マツ子 染矢豊喜 林裕人	
8月4日(日) 用來⇒天津留⇒下城⇒椀ヶ原⇒杭の内						
羽明忠夫 小野賀一 柳井正道 飛田郁	加藤隆美 御手洗堅 小野幾夫 飛田清馬	山畑実 御手洗正人 小野征夫 飛田芳海	簀戸健 御手洗哲 佐脇廣栄	宮脇敬 戸高恒喜 飛田和政	工藤信幸 御手洗豊喜 飛田幸幾	
8月5日(月) 内水⇒寺の下⇒岸の上						
戸高由美子 戸高浅生 桜井孝 桜井孝平	小野秀喜 戸高勝馬 櫻井有一 櫻井米士	山元都 戸高直人 桜井洋紀 原豊喜	戸高忠 松井文生 簀戸サヨ子 御手洗貞子	小野恒存 山下一博 簀戸茂一	小野邦彦 戸高壽生 櫻井淳一	
8月6日(火) 新中⇒久留須⇒川又⇒横川						
佐竹徹幸 飛田茂子 安藤秀明 小野広太 大竹良一	柴田弘 小野哲生 安藤廣美 竹尾育人 大竹正男	柳井みはる 柴田スミ子 安藤征一 深田加津昭	杉野良雄 渡辺昭子 安藤哲也 五十川正人	簀戸功吉 安藤道紀 安藤義博 大原節江	矢野薫 星野喜三男 大司八郎 島田裕子	
8月7日(水) 長野⇒立箱⇒市屋敷						
柳井昌之 後藤武士 柳井淳 安藤智公	安藤美喜 広瀬謙治 柳井隆喜 安藤郁	高橋忠男 廣瀬芳見 柳井律子 安藤税	染矢朝子 立箱功 柳井百人 柳井清浩	後藤時子 立箱和人 阿部茂美	広瀬伊久生 広瀬広美 柳井則幸	
8月8日(木：友引) 大久保⇒萱垣⇒大鶴⇒学校下⇒神内						
大久保保美 三浦清弘 久保田与治郎 染矢邦正 平井均和	戸高小恵子 久保田忍 三浦伸一 染矢順一 平井正和	大竹琴美 久保田嘉博 三浦幸一 松田哲郎 森下修	平井健吾 下川京一 三浦一人 小野二三子	川野恵美 久保田和博 三浦伸雄 小野和行	久保田英治 久保田成太 久保田康彦 立箱貞夫	
8月9日(金) 竹の下⇒園⇒中津留⇒仁所倉⇒間庭⇒三重⇒延岡⇒日向						
大村芳男 竹中裕子 水久保雄二 武田耕二	竹元詔二 佐竹伸幸 吉田春道 大津ツヨミ	古元親夫 大畑利春 高原幸吉 河野宏	三宮久人 吉田圭一郎 宮下浩一 五十川邦廣	竹下裕 谷崎博文 甲斐健平 柳川隆徳	竹中道治 簀戸精一 甲斐陽一	



◆お盆まいり各家別の日程◆

8月10日(土) 神の原⇒江河内⇒水口⇒間⇒本匠⇒弥生									
尾形 利勝 尾形 一彦 甲斐 龍太 甲斐 照光 平井 謙	安藤 康正 鴨尾 利夫 甲斐 典昭 飛田 幸平 岩崎 正人	甲斐 五月 吉内 良金 吉田 勇 河村 明 片岡 哲也	甲斐 律男 吉内 達也 小野 一人 柳井 滋敏 岩崎 洋子	足立 米壽 御手洗基茂 小野 永生 飛河 浩美 吉田 新一	甲斐 朝美 甲斐 義信 河野 林 御手洗恭子				
8月11日(日) 黒岩⇒青山⇒堅田⇒中山⇒稲垣⇒鶴望⇒王子丸⇒海崎⇒臼坪⇒城南									
小野 寛 吉田 博昭 矢野 尚武 菅 康子	小野 力 渡邊 靖子 工藤 義弘 小野 幸子	川股 憲明 新留 正次 鳴海 陽子 越智 久子	岡本みどり 仲宮 哲男 守永 晃男 安藤 太	松田 忠志 鳴海 三吉 吉田八重子 渡辺 邦子	富永 眞光 木下 智明 菅 利弘 矢野 喜一				
8月12日(月) 東町⇒野岡⇒新女島⇒女島⇒中ノ島⇒常磐⇒鶴岡⇒古市⇒上岡⇒宇佐⇒別府									
高野 敏夫 長友 秀勝 佐藤 入工 宮脇 晃	鳴海浩一郎 吉田 君江 染矢 和陽(初盆) 小野 勝本	甲斐 和夫 佐藤 元 山口 正春 鳴海 廣数	甲斐 誠 成松 文雄 小野 治重(初盆) 山口 隆弘	御手洗利美 御手洗一樹(初盆) 鳴海 君子 永川 厚	永富マツ工 平川 博道 小野 庫太				
8月13日(火) 賀来⇒王子⇒千代町⇒田尻⇒光吉⇒ふじが丘⇒高江⇒敷戸⇒片島⇒鶴崎⇒臼杵市									
竹田 宏充(初盆) 新 哲一 安藤 文江 国本 成昭	小野 智枝 甲斐 憲司 長田 文明	久保田慶史郎(初盆) 甲斐茂喜 柳井邦宏	安藤 昭彦 曾根田味喜男 小野 衛	井上 宏之 小野 文永 小野 勝	吉田 直純 田中 隆一 甲斐 政信				
8月14日(水:友引) 畑の浦⇒尾浦⇒鶴見⇒稲垣									
塩月 文磨(初盆) 山田 桂子 鳴海 由久 鳴海 勝也 甲斐 岩夫(初盆)	御手洗正雄 鳴海 隆子 鳴海 信吾 鳴海 勇	鳴海 三好 吉田 源蔵 山本 春男 山本 源義	鳴海 達男 鳴海 健二(初盆) 木下保治郎 鳴海 康生	鳴海トキ子 木下 善吉 山本伊勢治 山田 佐一	富高 和夫 鳴海 龍 鳴海雄二郎 宮脇 更生				
8月15日(木) 宇目⇒仁田原⇒赤木⇒直見									
後藤 廣 簀戸 猪文(初盆)	小戸 タマエ 染矢 昭一(初盆)	佐山 長利 矢野 俊行(初盆)	御手洗知佐子(初盆) 酒井 実(初盆)	戸高 恒子(初盆) 川野 貴重(初盆)	簀戸 寅夫(初盆) 吉内 耕二(初盆)				

位牌堂諷経(遠地などの都合でお参りが出来ない檀家先祖のお盆経)

8月16日(金) 午前11:00 法要									
小田 幸子(初盆) 加木 制子 中岡 富男 御手洗 環 森神 喜伴 山内 宏 柳井 晴美 安藤 兼喜 御手洗和司 田野 康行	岡部 信一 郷原健一郎 渡辺 嘉雄 村上 弥策 曾宮ワカ子 高野 澄代 後藤ノフ工 平井 清源 山下 繁彦 鳴海 良太	後藤 東 小椋喜見子 笠村 幸一 矢野 恵子 平野 龍 井上 基 広瀬 宏子 工藤 哲生 三根 千鶴 村西 栄二	甲斐 昭郎 安藤 延男 佐藤 和久 久保田博子 矢野 雅章 市原 真道 大石 幸子 小野マス工 鳴海千恵子 他永代供養各家	鴨尾 初恵 岡部三喜夫 河野 邦彦 荒牧 忠義 安藤 泰生 河野 清美 葛城幸一郎 園田ツヤ子 泥谷 新一	三股 忠芳 林 清登 藤村 道雄 高原チナミ 安藤 公喜 吉田 豊 橋本 勇 荻本 雅章 泥谷 藤美				

(乍勝手敬称略)

当日、お留守のお家は連絡をお願い致します。日程の変更は難しいので
位牌堂ふざんにお参りください。

お盆のあれこれ

8月13日

むかえぼん
迎え盆
くさきりぼん
草切り盆

8月13日を「草切り盆・迎え盆」と呼びます。
牛馬を飼っていた頃、日が明けぬ朝早くから野山に出かけ、牛馬のエサ(草)を刈りに行った経験は有りませんか。
盆の間は、大切なご先祖さまをお迎えするの牛馬の世話をしなくて済むようにと、たくさんエサを蓄えるこの日を「草切り盆」と言います。

むかえび
迎え火

早めにお墓にお参りして、夕刻になると「迎え火」を灯します。この「迎え火」を門火・庭燎とも言います。
日没に自宅の門口で目印の松明を焚きご先祖を迎えます。松明の代わりに縁側に提灯を灯すところもあります。
古くは、提灯に火を灯してお墓までご先祖さまをお迎えに行っていました。間違つて14日にお迎えに行っているお家がありますが、ご先祖さまのお帰りは13日ですよ。

あらいおけ
洗い桶

13日の夕刻には、縁側の戸を開けて、帰ってこられたご先祖さまの足を洗うための「洗い桶」を用意します。
供養されない迷った霊は「お化け」といい、足が有りませんが、ご先祖さまは皆さまから供養されているので足が有ります。翌朝、「洗い桶の水が濁っている」と言うのは、ご先祖さまがお帰りになった証かも知れません。

ごえん
ご縁

さて、ご先祖さまが縁側から帰って来るには理由があります。みなさんの家で、生涯を過ごす大切な方の出入り口は全て縁側を正式としていたからです。
みなさんも嫁いでこられた時、縁側から入ってきませんでしたか。
お嫁さんに出すときも、お嫁さんを迎えるときも縁側を出入り口としていました。
「うちの娘もご縁があって〇〇家に嫁ぐようになりました」とは、ここから出た言葉なのです。
生涯をその家で過ごし、人生の臨終を迎えてお亡くなりになった時も、縁側から出棺して浄土へ旅立ちます。

きゅうりのうま
胡瓜の馬

年老いて足腰が不自由で、帰って来るのが遅いご先祖さまもいるかも知れません。そこで、胡瓜に竹の足をつけて馬に見立て、お墓にお供えます。これを「胡瓜の馬」と言います。
「馬に乗って早く帰って来て」と願う気持ちからです。
又、どんなに遅い方でも13日中には戻ってこれられると言われるので、縁側の戸を開めるのは13日の夜中12時過ぎ(14日)なのです。

こうじき
香食

13日の夜中、全員のご先祖さまが戻られた頃、仏壇にお明かりを灯し線香を立てます。
線香の香りがご先祖さまの最初のおもてなしです。中国では「香食」と呼んでいます。香りが死者の食べものなのです。線香立ての灰もきれいにしておきましょう。
灯したロウソクが揺らぐと「ホラ！帰って来られた」と昔の人は言っていました。

8月1日

みちつくりぼん
路作り盆

8月1日を「盆入り」と呼びます。文字通りお盆の月に入った事を示します。又、お墓や墓道の草切りを始める日なので、「路作り盆」とも言います。
日本でのお盆は、推古天皇十四年(606年)の7月15日(中元)に行なったのが最初と言われています。現在の日本では、7月盆と月遅れ盆(8月盆)とあり、東日本は7月盆が多く、西日本では8月盆が多く見られます。九州でも宮崎や熊本・沖縄の一部を除いては、8月にお盆の行事を行っています。旧暦の7月15日に行なう地方もあります。

8月5日

すすはきぼん
煤掃き盆

8月5日を「すすはき盆」と呼び、お盆の準備のために、家のスス払いや掃除をします。遠くで働く家族や親戚がお盆には戻ってきます。この日からそろそろお嫁さんは忙しくなります。

8月7日

いけかえぼん
池替え盆

8月7日を「七夕」・「池替え盆」と呼びます。
お盆が近づくこの日は、身の回りをきれいにする日とされています。昔から体を清るために沐浴(水浴び)をしたり、髪を洗ったり、牛馬に水浴びをさせたりしました。
水浴びを「ねむり流し・ねぶた流し」などと呼ぶところもあります。青森の「ねぶた祭り」もご先祖を迎える準備として、身の回りの「邪気(睡魔)」を追い払い清める行事です。
水に流すことで願いを叶える風習は、7月7日の「たなばた」の行事からもうかがえます。
又、「池替え」とは井戸さらいの事で、井戸の掃除や墓の掃除から仏壇の位牌や仏具まで、きれいに洗い流す日とされています。中国では、墓参りを「掃苔」と呼びます。文字通り墓に付いた苔を取り掃く事です。新盆を迎える家は、この日から飾り付けを行います。新盆供養の盆提灯もこの日に間に合うように送ります。

8月11日

はなとりぼん
花取り盆

8月11日を「花取り盆」と呼びます。
お盆のお仏壇やお墓にお供えする花を準備する日の事です。
花は「檜・櫛・シキミ」の事です。木偏に佛と書いて「シキミ」・木偏に神と書いて「サカキ」と読みます。仏さまにお供えする花は、「シキミ」・神さまには「サカキ」です。「シキミ」を「シキビ」と訛つて私たちは呼んでいます。もともと、「シキミの木」は毒性が強く、土葬した遺体を野犬やおおかみ等の野獣から守るために、用いられました。お墓にシキミを供えるのはこうした理由からです。ヒノキなどの新芽を食べる鹿もシキミの新芽は口にしません。毒があることを知っているからです。この日に準備した花(シキミ)を水に浸し、花が十分に水を吸い上げた頃に、仏壇やお墓にお供えすると長持ちするとされています。

知ってましたか?



水の華

なすび等の生野菜・米・小豆などを混ぜた物を「水の華」又は「水の子」と言いお墓に撒いてあげます。餓鬼道に落ちた亡者は、十分な食べ物を与えられず、体は痩せ細り、喉は極端に細くなっていると言われます。喉が細いので「水の華」は、食べやすいように細かく刻んでいます。又、水の華や線香は残っても決して持ち帰りません。ご先祖さまへの供物は、亡き父・亡き母への供物です。持ち帰ると、「もったいない」と言う欲心があるように思われるからです。親への恩返しに損得はありません。昔の人は、「残った「水の華」に餓鬼が付いて来るから」とそれとなく戒めていました。

留守墓参り

お盆の間、誰からも供養されない餓鬼がご先祖さまがいない留守の墓に寄りついているので、ご先祖さまの代わりに、浮かばれない霊に供養するのが「留守墓参り」です。自分だけではなく他の人も救いたいと願う心は、お盆の由来そのものの教えです。禅宗では「まず他の人を救い、その功德で自らも救われる」と言う法要が有ります。これを「施餓鬼会」と言います。「情は人の為ならず」の格言と同じです。正定寺も江戸時代は、7月1日～15日の間は施餓鬼棚を設けて供養がなされていたと記録が残っています。現在は月遅れの8月1日～15日に各家へのお参りになり、「施餓鬼会」は9月の彼岸に法要がなされています。

精霊流し

西方丸と書いた小船に供養の品々を供え15日の深夜に川や海に流す風習を「精霊流し」と言います。ご先祖さまの霊は、「送り盆」の16日夜明けに、東から昇る太陽と共に西の西方極楽浄土に無事にお帰りになると言われています。16日送り盆の夜明け、沖に昇るお日さまに間に合うようにと15日の深夜に流します。直川村では、16日の早朝(夜明け前)にお供えした団子や果物などを川へ木板に乗せて流すのが一般的です。

8月16日

送り盆

8月16日を「送り盆」と言います。15日に送る家もありますが正式には16日です。

茄子の牛

茄子に竹の足を付け牛に見立てて仏壇に飾ります。これを「茄子の牛」と言います。牛に乗って「ゆっくり戻って下さい。」と別れを惜しむ風習です。

土産の団子

浄土へお戻りになるご先祖さまの「土産の団子」は、少しでも多く持ち帰りが出来るようにと、平らに作ります。丸団子では積み重ねが難しいからです。又、多く担げるようにと「じがるい豆」と言う細長い豆もお供えします。この豆は、束ねたり又担ぎ籠の縄となるように持たせます。

送り火

16日の日没にお墓で松明を灯します。この火を「送り火」と言います。ご先祖がお帰りになる場所を示す目印の明かりです。歩くのが遅いご先祖さまも日が沈む頃には無事にお帰りになると言われています。京都の大文字焼きは「送り火」の事です。これで、3泊4日の里帰りが終わります。

8月14日・15日

盂蘭盆

8月14日と15日を盂蘭盆と言います。

「盂蘭盆経」と言うお経の中には地獄(餓鬼道)に落ちて苦しむ母を救うために、僧侶のお経と「飯・百味・五果」などの馳走を棚にそなえ、その功德を以て救われたと説かれています。

地獄での苦しみは、まるで「逆さ吊り」にされているような苦しみ(倒懸苦)と言われ、この「倒懸苦」をインドの言葉で「ウラバーナ」と言います。「盂蘭盆・うらぼん」の語源です。

私が修行道場にいた頃も、4月15日から7月15日迄の3ヶ月を雨安居と言ひ、その終わりの日(7月15日)を「僧自恣の日」と呼び、寺院では「施餓鬼会」が行われます。お盆の行事はこの仏さまの教えが基になっています。

精霊棚

お盆は特別に「精霊棚」を飾ります。「精霊棚」は、仏間の縁側に設けていました。

この棚を「施餓鬼棚」とも言います。和尚さんは「精霊棚」に向かって「お施餓鬼」のお経を唱えます。

今でも、お盆に和尚さんがお参りすることを「棚経」と言います。皆さんの中には、この「施餓鬼棚」でお迎えしていた頃を覚えている人は有りませんか。

納屋の隅にこの「施餓鬼棚」がある家はありますか。

お盆の正式な祀り方は、「施餓鬼棚(精霊棚)」を縁側に飾り付けるものでした。

生霊供

生霊供の材料とは、なすび・トウキビ・芋 瓜・洗米など火を加えずには食べられないものです。

これは、餓鬼道に落ちた者は、「食する物が全て火になる」と言われ、生米などの生の穀物を口にするると口元で火が加わりちょうど食べ頃になると言われるからです。

餓鬼はいつも口の中が燃えさかり、ノドが渇くとされています。水の力で「邪気を洗い流す・水で炎を消す・水でノドの渴きを治める」ところから、精霊棚には水が注がれた大きな器が備えられて、水が散けるようになっています。

又、この水を「アカ(闍伽)」と言います。中国の言葉で「供養」と言う意味です。お墓に水を散くのもこうした理由があるからです。

お供え

お供えは、年忌法要の時と同じように「お霊供膳」・「団子」・「菓子」・「果物」・「茶」・「湯」・「水」と共に、特別に灯笼提灯に見立てて「灯笼菓子」・「ホウズキ」、又畑で採れた「なすび・カボチャ・トウモロコシ等々」をご先祖さまに感謝を込めてお供えします。

臨時世話人総会（晋山式収支報告）

平成25年3月16日に行われた「晋山式特別会計」の監査を経て3月24日に「臨時世話人総会」が開催されました。

4月以降は新旧役員との交代があり実質晋山式に関わった役員への収支報告が出来なくなるので3月中の開催となりました。

約3ヶ年にわたる晋山式の報告は戸高直人特別会計さんから、続いて監査委員より監査報告がありました。

当初予算における檀信徒負担金の収入で当初予算支出をまかない、増額した収入で補正予算の編成が行われました。お陰で多くの方にご協力賜り当初の予定より立派な晋山式を行う事ができました。

補正予算の実施は平成24年夏に発行された寺報（56号）や平成24年5月30日・同年9月29日の世話人総会収支資料やその後の寄付金・行事内容などをふまえて骨格を見直し補正予算を作成致しました。

第二十四世 南陽拓朗和尚 晋山式特別会計 収支決算書

【収入】

項目	補正後予算額	収入額	備考
檀信徒負担金	27,100,000	27,274,000	檀家371戸(26,982,000)・分家分4戸(292,000)
山林収入	6,900,000	6,922,091	正定寺所有山林処分及び境内整備に伴う立木処分
法要収入	8,500,000	8,935,080	来賓寺院賀儀（*76ヶ寺） 4,880,000 一般参拝者ご祝儀（*118名） 1,427,000 役員・特別寄付参拝者ご祝儀（80名） 2,105,000 稚児参拝者ご祝儀（*19名） 135,000 一般その他ご祝儀（*29名） 388,080
特別寄付金	21,500,000	21,696,030	*特別寄付金 12,373,000 住職特別寄付金 9,323,030
雑収入	150,000	181,883	稚児行列参加負担金 148,000 預金利息（農協通帳及び郵便通帳） 3,383 過誤納付分返金 30,500
計	64,150,000	65,009,084	

【支出】

項目	現予算額	支出額	備考
法衣代	7,464,000	6,779,100	法衣・袈裟・大傘修繕・稚児衣裳等
仏具代	476,000	430,776	仏具・位牌修復等
境内環境整備	11,000,000	10,983,630	石段石垣修復工事 3,498,000 景観整備（植栽・剪定・崖伐採等） 2,088,000 庫裡周辺外溝整備・車道石垣等 2,125,300 参道張り石工事 2,467,355 その他整備（外トイレ改修・由来看板改修等） 804,975
屋内修繕修復	28,000,000	27,741,425	借上料（足場・重機） 126,800 材料費（製材資材等：工事総床面積258.39㎡） 5,176,748 基礎工事 991,500 設計管理委託料 800,000 塗装工事 603,000 屋根工事 716,490 大工工事（工事総床面積258.39㎡） 7,160,450 内装工事（クロス・網戸・畳） 1,135,005 電気給排水工事 3,028,875 樋設置工事 1,160,000 産廃処理費 464,328 その他工事（白蟻予防・バルコニー解体） 190,000 設備費（トイレ・建具・照明・キッチン等） 5,584,229 備品修繕（掛け軸・曲録） 604,000

項目	現予算額	支出額	備考
垂示式・住職請願	1,120,000	1,113,830	前堂職法階取得研修会参加費 20,000 垂示挙行式費・同門茶禮費 100,000 請願書・垂示履行届 950,530 登記費用等 43,300
晋山式法要費	14,800,000	14,797,077	委託料（写真・DVD・花火等） 1,060,200 役務費（記念品送料等） 100,570 借上料（タクシー・衣装・椅子・立て札等） 1,267,530 記念品（檀信徒・参拝者・檀信徒・特別寄付者等） 3,932,625 式典雑工事 53,000 人件費（清掃人夫賃金） 274,080 接待費（参拝者270・稚児55・祝斎182等） 3,990,049 物品費（緋毛氈等消耗品費） 639,023 放行代（お返し・揮毫代・駕料） 3,480,000
その他 （会議・印刷・消耗）	1,290,000	1,242,161	印刷製本費（領収書・案内状等） 432,450 消耗品費（封筒等） 86,062 食料費（会議茶菓子等） 58,799 看板整備（尾浦由来看板設置） 475,965 通信運搬費（切手・郵送料） 117,270 手数料（支払手数料・負担金振替手数料等） 71,615
計	64,150,000	63,087,999	

収入額 65,009,084円
 支出額 63,087,999円
 差引金額 1,921,085円（余剰金）

※平成22年11月3日の当初予算額に補正予算（増額又は減額）したものが現予算額です。
 ※*印は個人情報が含まれるために総代会のみの資料としています。
 ※備考に示された項目は、金額の多少ではなく収入536項目と支出244項目の中で晋山式において檀信徒が目にして判りやすく映ったものを記しています。
 又、余剰金は前回の晋山式同様に正定寺花園会会計へ繰入れます。以上必ず心にお留めいただきますようお願い致します。



総代会



住職挨拶



臨時世話人総会の様子



臨時世話人総会の様子



特別会計報告



監査報告

天候に恵まれた大般若会

平成25年1月20日の恒例大般若会は晴天に恵まれ227名の参拝者で賑わいました。また、檀信徒総会では本山管長さまから届いた米寿と新成人のお祝いを披露いたしました。



大般若轉讀



大般若参拝者



檀信徒総会で
挨拶する小野総代



大般若轉讀



早朝から加勢いただいた役員さん

米寿のお祝い

No	本山登録花園会員	該当者	地域
1	小野常喜	小野常喜	直川
2	甲斐好隆	甲斐好隆	大分市
3	志賀満	志賀トシ工	直川
4	柴田弘	柴田弘	直川
5	竹尾育人	竹尾育人	直川
6	広瀬豊喜	廣瀬ナミコ	直川
7	星野延子	星野延子	直川
8	鳴海龍	鳴海保	尾浦

新成人のお祝い

No	本山登録花園会員	該当者	地域
1	石川栄子	石川由紀	大分市
2	岩崎政徳	岩崎真樹	直川
3	植田純市	植田祥嗣	直川
4	大竹正男	大竹久志	直川
5	大竹琴美	大竹さき	宗像市
6	岡田喜敏	岡田真実	直川
7	小野智枝	小野怜佳	大分市
8	小野哲夫	小野将弥	直川
9	甲斐茂喜	甲斐有紀子	大分市
10	染矢憲一朗	染矢レナ	直川
11	武田敏秋	武田彩由里	直川
12	竹田宏充	竹田暁仁	大分市
13	戸高由美子	戸高翔平	直川
14	戸高小恵子	戸高祐哉	直川
15	富高和夫	富高望	尾浦
16	星野真澄	星野菜摘	直川
17	星野真澄	星野莉沙	直川
18	柳井邦宏	柳井湧翔	大分市
19	矢野薫	矢野和奈	直川
20	山口隆弘	山口美咲	別府市

(乍勝手敬称略)



米寿のお祝い



檀徒総会での本山から届いた米寿のお祝いを披露する



導師の大般若



お接待



ご加勢の女性部



二番座の役員さん ご苦労様でした



盛り上がったくじ引き



1等が当たりました

二番座ご苦労様でした



2等が当たりました



景品が当たりました



親子で景品が当たりました

餅投げ



妙心寺義援金のお礼

正定寺花園会員様

花園会総裁 河野太通
 花園会会頭 栗原正雄
 全国花園会会長 土崎 敦

東日本大震災花園会員 見舞金納入の御礼

未曾有の東日本大震災発生以来、花園会員の皆様には復興支援のために義援金をはじめ、種々ご協力ご支援を賜り、誠に有難うございます。

更に、このたびは花園会員互助の「おかげさま」の精神をお汲み取りくださり被災された花園会員への見舞金を菩提寺を通じてお送り頂きましたこと重ねて厚くお礼申し上げます。

尚、これからも被災を受けられたすべての人々の深い悲しみに寄り添い、一日も早い復興と被災された方々の心に平安が戻りますことを願い支援活動を続ける所存であります。ご協力のほどよろしくお願ひ申しあげます。

また、今日までの妙心寺派としての支援活動につきましては、公式ホームページ等で逐次その経過をご報告しておりますので、詳細につきましてはご覧いただければ幸いに存じあげます。

合掌

東日本大震災花園会員 見舞金のお願ひとお礼

平成25年6月15日の献茶会までに賜りました、東日本大震災花園会員見舞金は妙心寺を通じて被災地の花園会員に支援されました。見舞金を賜りました皆さまには氏名の寺報掲載をもちまして義援納受と互助の感謝を申し上げます。

見舞金は全国妙心寺派寺院に震災直後から平成26年3月末までに義援のお願ひとお話がありました。皆さまには妙心寺発行の「おかげさま」を見て「正定寺はまだですか」「ペットボトル積み立てが出来ました」などの問い合わせを頂いてい

ました。

義援期間中は檀信徒さまへ晋山式のご寄進をお願いして頂きましたので各家の負担軽減を考慮して晋山式終了後の平成25年度中の義援活動のお願いになりました。

見舞金のご案内は地区世話人さまの担当地区から行われています。

その他の檀信徒さまには寺報59号と共に趣意書などを同封しておりますのでお盆に住職がお参りしましたらお預けください。遠地の檀信徒さまには何かの機会に郵送かご持参いただければ幸いです。

正定寺住職
正定寺総代

※今回の募金中に旅行やお仕事で世話人さまへ義援金を渡すことが出来なかった檀家さんは、都合の良いときにでも正定寺・村西会計さん・総代さんに直接お渡しください。尚、「ペットボトル積み立て」をしている檀信徒は引き続きお願ひ申し上げます。

義援を賜りましたみなさま

甲斐 辰己	佐脇 廣栄	簀戸サヨ子	野々下 博	小野 哲夫	久保田嘉博
甲斐 龍太	戸高 恒喜	簀戸 茂一	林 亀	小野 富生	久保田英治
山本 源義	飛田 郁	戸高 壽生	古矢 長生	志賀健一郎	久保田美津江
木下 保治郎	飛田 和政	羽明 忠夫	近藤 正視	染矢フサ工	久保田 忍
戸高 浅生	飛田 幸幾	松井 文生	小野 浩伸	染矢 春江	久保田綾子
戸高 直人	御手洗 哲	御手洗 貞子	御手洗 晴視	鉄山 宗始	下川 雅秀
小野 邦彦	飛田 清馬	山畑 実	小田木 聖孝	橋迫 寿生	戸高小恵子
小野 恒存	御手洗 正人	桜井 孝平	井崎 敏行	林 裕人	三浦 一人
小野 秀喜	飛田 芳海	小野 美智治	小野 二三雄	林 美春	三浦日出男
戸高 勝馬	柳井 正道	石川 栄子	長田 小太郎	山口 直哉	三浦 幸一
戸高 忠	加藤 隆美	曾根田 千鳥	御手洗 麗子	山下 富美江	平井 健吾
山元 都	桜井 洋紀	小野 潔	柳井 順一郎	久保田 和博	小野 寛
戸高由美子	桜井 有一	小野 道夫	柳井 孝義	三浦 伸一	小野 力
御手洗 堅	櫻井 米士	植田 純市	小野 勇一	大久保 保美	川股 憲明
小野 幾夫	簀戸 健	小野 泰雄	染矢 豊喜	大竹 琴美	大竹 正男
小野 征夫	簀戸 寅夫	志賀 満	岡田 喜敏	川野 恵美	大竹 良一

義援を賜りましたみなさま

安藤 康正	平井 均和	高橋 忠男	高橋 慶太	竹下 裕	鳴海 信吾
足立 米壽	森下 モキ	安藤 美喜	宮下 與	大畑 利春	鳴海 隆子
尾形 利勝	柳井 律子	後藤 武士	矢野 照雄	竹中 裕子	鳴海 達男
尾形 一彦	柳井 百人	後藤 時子	山内 一平	竹元タマエ	鳴海トキ子
甲斐 朝美	安藤 智公	染矢 朝子	山内 正明	吉田 禮子	鳴海 三好
甲斐マツ代	柳井 清浩	立箱 和人	安藤 秀明	御手洗基茂	鳴海雄二郎
甲斐 律男	柳井 淳	広瀬 謙治	安藤 廣美	甲斐 照光	山本 春男
鴨尾 利夫	安藤 金喜	広瀬 広美	安藤 道紀	小野 永生	山田 桂子
武田 敏秋	野村 浩史	柳井 昌之	安藤 哲也	小野 一人	山本伊勢治
村西 栄二	伊東 好文	廣瀬 芳見	簀戸 功吉	甲斐 典昭	鳴海 由久
小野 和行	岩崎 政徳	広瀬 茂弘	安藤 義博	河野 林	吉田 源蔵
甲斐 興宣	宇戸ミヤ子	安藤アヤ子	小野 広太	吉内 良金	鳴海 龍
甲斐 一男	川野久美子	安藤 健辞	小野 哲生	吉内 耕二	柴田又ミ子
染矢 邦正	川野登志郎	安藤 哲也	柴田 弘	吉内 達也	小野二三子
染矢 節子	広瀬 豊喜	安藤 鉄也	大司 八郎	吉田 勇	安藤 愛子
森下 修	広瀬 正也	安藤 久男	飛田 幸平	甲斐久仁子	後藤 政子
武田 博	御手洗欣也	後藤富士夫	飛田 茂子	木下 善吉	広瀬伊久生
武田 雄二	川野 貴重	広瀬 精治	星野喜三男	富高 和夫	安藤 征一
立箱 貞夫	岩佐 昭一	安藤 慶喜	柳井みはる	鳴海 勇	
平井カズ工	後藤 保代	柳井 道則	矢野 薫	鳴海 勝也	
松田 昭治	染矢 信子	山内 文男	渡辺 昭子	鳴海 健二	

(乍勝手敬称略)

平成24年度 花園会会計監査のようすと定例総代会

平成25年6月2日に花園会会計の監査が行われました。

花園会会計とは檀信徒の護持金（年会費）を用いる会計です。監査委員は21地区の花園会世話人さんの中で最年少2人がその任にあたります。収支は厳正に監査されて収支決算資料の確認をするために外部関係者に連絡をとることもあります。

監査を受けている部屋は、会計と監査委員の3名で、同時に、総代会（定数5）も別の部屋で行われています。

新住職にとつては、2度目になる総代会です。

総代会では予算や特別な行事などについて説明や計画が話し合われます。

別室の監査が終わると、総代会と監査委員・会計との会議になり、予算・決算など「世話人総会の議案」に付いて検討されました。3時間の会議が終わり、

監査委員や総代の提案などを踏まえて再び会計さん（事務局兼任）が最終資料を作成してくれました。作成された資料は、メールで正定寺に届き、6月15日に行われる世話人総会（花園会役員会）に向けて、世話人さんへ事前配布されます。

平成24年度会計監査

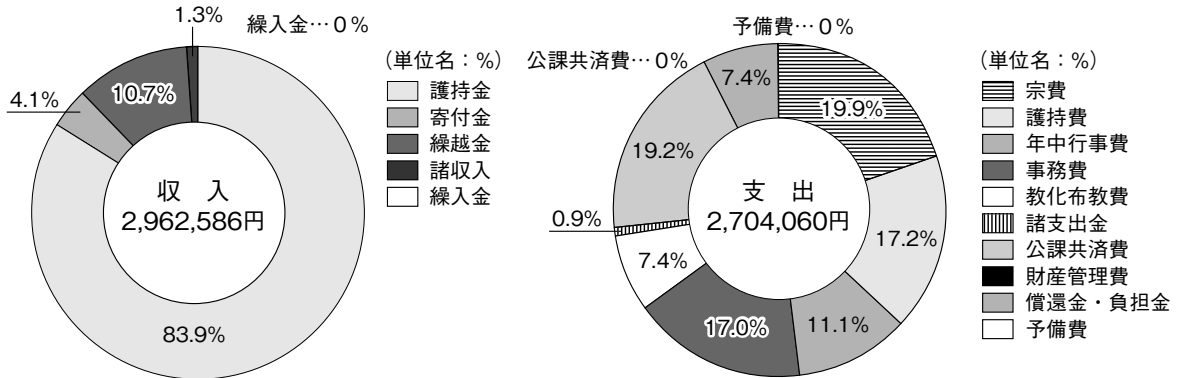


▼平成25年度定例総代会



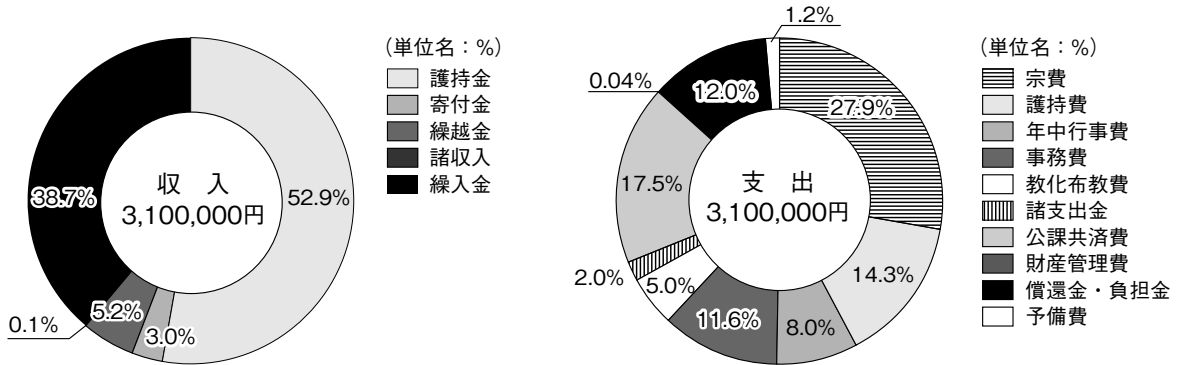
平成25年度予算会議

平成 24 年度 花園会会計決算



(収入合計) 2,962,586 円 - (支出合計) 2,704,060 円 = (差引) 258,526 円を平成 25 年度へ繰り越します。

平成 25 年度 花園会会計予算



詳細な金額をお知りになりたい方は、花園会世話人さまか花園会役員さまへお尋ね下さい。

世話人総会前の献茶会法要



平成 25 年 6 月 15 日の午後 7 時から 9 時 30 分まで各地区世話人さまや花園会役員さまが年 1 度の総会に集まってく下さいました。

役員さまには農繁期の忙しい中、時間を割いていただき、位牌堂で献茶会と東日本大震災で亡くなられた方へのご回向を役員参列の中で執り行いました。



平成 25 年度
花園会世話人総会 (献茶会)

平成25年度 花園会世話人総会(正定寺花園会役員総会)

世話人総会ご出席の皆さま(乍勝手敬称略)

1	戸高 浅生	内水地区世話人
2	御手洗 堅	椀杭地区世話人
3	加藤 隆美	岸の上地区世話人
4	小野美智治	上の地地区世話人
5	小野 浩伸	細川内地区世話人
6	染矢 豊喜	袖の原地区世話人
7	小野 寛	黒岩地区世話人
8	久保田和博	大鶴地区世話人
9	武田 敏秋	神栗地区世話人
10	野村 浩史	堂師地区世話人
11	川野 貴重	野の内地区世話人
12	高橋 忠男	立長地区世話人
13	山内 文男	吹原地区世話人
14	安藤 秀明	久留須・新中地区世話人
15	竹下 裕	竹園地区世話人
16	御手洗基茂	江河内・道越地区世話人
17	小原 南陽	住職
18	小野 永生	正定寺総代
19	御手洗晴視	正定寺総代
20	安藤 廣美	正定寺総代
21	村西 栄二	花園会事務局・会計
22	竹中 裕子	花園会会計監査
23	植田 純市	花園会会計監査
24	小田木聖孝	花園会青壮年部部长
25	大竹 琴美	花園会女性部部长
26	安藤いつ子	花園会女性部副部长
27	広瀬 芳子	花園会女性部事務局・会計
28	林 美喜枝	花園会女性部会計監査
29	柳井 幾子	花園会女性部会計監査
30	甲斐久仁子	花園会女性部顧問
31	小原 壽山	閑栖

総会では午後7時30分から「平成24年度収支・監査・行事」と「平成25年度予算・行事予定が」がそれぞれ報告され2時間後に閉会いたしました。質疑では大鶴地区より「義援金について」・上の地区から「晋山式DVDについて」・久留須地区から「寺院の寺班について」・江河内地区より「義援金の予算表示について」などのご意見を賜りました。その他にも貴重なご提案も賜りました。



★★★ 檀信徒へのお知らせ ★★★

- ①義援金を賜った方々への個別領収がありませんので寺報紙面にご芳名を掲載して義援金の受納とさせていただきます
- ②晋山式DVDは7月下旬に寺院・稚児・役員関係者に個別配布して希望者については二千元でお譲りする予定です
- ③花園会見舞金の義援金収支は来年の平成26年度世話人総会でご報告申し上げます。



平成25年 春のお彼岸法要

平成25年3月23日午後1時30分より位牌堂で「春の彼岸供養と初午会供養」が行われ参拝者に初午のお札が渡されました。法要後は本堂に移動して午後2時より本山布教師さんによる定期巡教が行われました。

今年には宮城県大和町の禅興寺住職 梅澤徹玄師による「おかげさま」を演題に1時間程のお説教を頂きました。東日本大震災の現状や



本山布教師の梅澤徹玄和尚さま

全国から応援に来ていただいた、ボランティアのみなさんによる支援の感謝や罹災したご家族の生きる力が多くのみなさんに支えられている事などのお話を57名の聴衆は真剣に聞き入っていました。東日本大震災花園会員見舞もお説教のお話の中で「おかげさま」の心と共に広がり、多くの方の見舞金の義援につながったのではないかと思います。



お話に聞き入る檀信徒

平成25年度

第5回 黄龍窟杯グラウンドゴルフ大会

平成25年3月1日午後12時45分から第5回黄龍窟杯グラウンドゴルフ大会が佐伯市本匠因尾の本匠西スポーツ公園で行われました。

九州東教区第二部花園会の主催で行われ、各寺院から約140名が参加してチーム戦（寺院別）で優勝を争いました。大会は2ラウンド（16ホール）で行われる予定

でしたが、午後2時過ぎから雨になり1ラウンドだけの大会になりましたが、各寺院の檀信徒交流も広がる有意義な大会となりました。

正定寺からは「古元聖人さん（竹の下）・矢野薫さん（久留須）・飛河浩美さん（間）・大司八郎さん（久留須）・久保田キヨエさん（大鶴）・矢野侃可さん（久留須）・三浦伸一さん

（大鶴）・竹下好子さん（竹の下）・小野浩伸さん（細川内）・岡田千壽子さん（柚の原）」が参加しました。

残念ながら団体入賞はかないませんでした。個人で古元聖人さんが3位に飛河浩美さんがホールインワン賞を獲得しました。



正定寺チームの集合



会場に集まった選手



正定寺チーム

第9回 正定寺杯グラウンドゴルフ大会

平成25年3月23日午前10時30分より「第9回正定寺杯グラウンドゴルフ大会」が直川苑グラウンドで行われました。

大竹琴美女性部長の挨拶に続き、山崎幸治直川苑施設長さんの歓迎挨拶がありました。

前回優勝者の簀戸功吉さんの選手宣誓で晴天の中競技が行われました。正午から観音堂で表彰式が行われ今年の1位は戸高茂子さん（椈ヶ原）・2位は大畑記美代さん（園）・3位は三浦伸一さん（大鶴）でした。



女性部会長の挨拶



競技の様子



最高齢者の男女に贈られた寿賞は男子が岩切初さん・女子が五十川キミエさん



1位の戸高茂子さん



競技後のお接待



2位の大畑記美代さん



3位の三浦伸一さん



大竹琴美さん・廣瀬芳子さん・小野浩伸さん
久保田キヨエさん・佐脇廣栄さん



大畑利春さん・飛河浩美さん
五十川キミエさん・竹下好子さん・山田牧江さん



安藤健辞さん・御手洗好子さん
小野シマ子さん・岩切初さん・矢野侃可さん



戸高茂子さん・大畑記美代さん・矢野薫さん
河野林さん・簀戸功吉さん



吉田礼子さん・岡田千壽子さん
三浦伸一さん・簀戸美代子さん・鴨尾利夫さん



鴨尾エイ子さん・古元聖人さん
大司八郎さん・小田木布子さん・山田佐一さん

献茶会と 平成25年度定例花園会 女性部総会

平成25年6月14日午後2時から位牌堂で献茶会がありました。

正定寺の献茶会は100年ほど前から行われている法要で、「新茶（煎り茶）」をご先祖さまに奉納する法要です。

このお茶の製造をこの地域に伝えたのが正定寺第20世の鐵山和尚です。

お年寄りの中にはお茶の作り方を「お寺の茶」と言う方もいます。

写真は明治28年、京都で開かれた第4回国勸業博覧会に出品した煎茶がその栄を受けた褒状です。この村で採れた茶葉で作られた煎茶が全国で認められた証です。

その奉納されたお茶を女性部の皆さんと一緒に

仏さまへ差し上げる事が出来ました。

法要の後は書院で女性部総会を行い、「平成24年度行事報告と収支決算」や「平成25年度の行事予定や予算」などを話し合いました。



第4回国勸業博覧会での表彰状



献茶会にお参りした女性部のみなさん



女性部総会での役員



女性部総会



献茶会のお説教